



## ～カンキツでのサビダ二類の発生について～

カンキツではサビダ二類やホコリダ二類、ハダ二類が発生します。特にサビダ二類とホコリダ二類は果実を加害するため、多発生すると商品価値が著しく低下します。

そこで防除適期を明らかにするために2016～2018年の3年間、上記ダ二類3種の露地栽培と施設栽培での発消長を調査しました。今回はサビダ二類の発消長を紹介します。施設栽培では2016、2017年は4～6月に葉と果実で寄生率が高まりました。2018年は4～10月に果実で寄生率が高まる一方で、葉での寄生率は前年の10月から増加しました(図1)。

露地栽培では2016年は4月中旬から果実に寄生がみられ、4月下旬から5月上旬で寄生率が高まりました。そして9月下旬から葉での寄生率は再び大きく上昇して12月上旬にピークとなりました。2017年でも10月から寄生率の上昇が認められました。したがって年次変動はあるものの、施設栽培と露地栽培ともに4月下旬～5月上旬と10～11月が防除適期となります。防除の際は早期防除を心がけましょう。防除方法などでご不明な点がございましたら、農業センターか営農研修所までご相談ください。

＜病害虫担当：飯塚＞

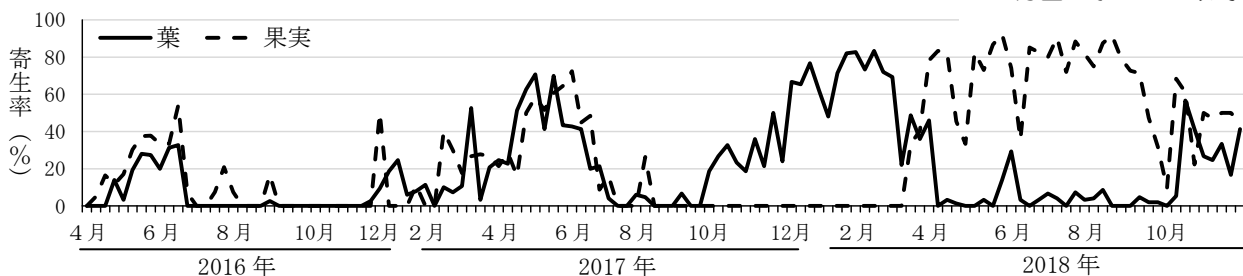


図1 施設栽培(無防除)でのサビダ二類の発消長

### 土壌診断のお知らせ

効率の良い土作りのため、土の定期診断を受けましょう。野菜では次作の畑の準備をする前、果樹では収穫が終わって施肥をする前がチャンスです。

一握り程度の土を採り、ゴミやホコリ等を取り除き、よく乾かして、できれば目合い5mm程度のフルイを通して、紙封筒(提出場所で配布)に入れて、ご氏名、連絡先、畑の場所等を記入して下記の期限までに提出して下さい。

★提出先 父島は農協父島支店、母島は農協母島店です。

	土壌試料提出期間	診断結果のお知らせ
第1回	6月17日(月曜)～6月28日(金曜)	7月中旬
第2回	7月29日(月曜)～8月9日(金曜)	8月下旬

## ～平成 30 年度試験成績概要～

### 1. カンキツ類の小笠原における生育特性の把握

●小笠原における「菊池レモン」でのハダニ類、サビダニ類、ホコリダニ類の発生活長施設栽培ではハダニ類は1～5月と8～10月に増加しました。サビダニ類は4～6月に葉と果実の両方で、または10月に葉で増えた後、翌年4月以降に果実で増加しました。ホコリダニ類は少発生でした。（飯塚）

### ●「小笠原オレンジ」の優良系統選抜（結果4年目）

優良系統として収集された4系統について、4カ年の累計収量、1果平均重、貯蔵性、食味評価などに基づいて総合的に判断すると、硫黄島由来のI系統が最も有望でした。ただし隔年結果性が強いいため、連年安定生産技術を検討していきます。（荒井）

### 2. 新たな資材活用による栽培技術の開発

### ●「菊池レモン」の果実間接触部分における着色不良抑制方法の検討

スチレン系ポリマー製の厚さ5mm透明シートを収穫が見込まれる4週間までに果実同士の接触部分に処理することで着色不良を抑制できました。実用化に向けて耐用年数やコスト面を検討していきます。（荒井）

### ●パッションフルーツ栽培の近紫外線除去フィルム、赤色LEDによるアザミウマ類防除

近紫外線除去フィルムを尾張することで、アザミウマ類の被害を低減できました。一方で赤色LED照射による防除効果は認められず、開花の遅延と収量の低下が起きました。これは防除のための長時間照射が生育に影響を及ぼしたものと考えられます。（中村）

### 3. その他特産熱帯果樹における新たな可能性の検討

### ●用土量を変えた根域制限におけるマンゴ

一の生育比較（定植4年目）  
根域制限栽培において土量200Lと120Lで比較した場合、定植4年目（収穫2年目）の生育は200Lの方が旺盛な成長を示しました。収量は120Lの方が多くなりました。なお果実品質に差はありませんでした。隔年結果性を考慮し、今後も調査を継続して最適な用土量を明らかにします。（北山）

### ●パッションフルーツ平棚仕立てにおける最適な着果数の検討

非電照施設平棚栽培で1樹あたりの着果数を200、240、280果で制限し、比較したところ果実重に差はありませんでした。一方で1樹あたりの収穫個数が減少するため、収量が低下しました。着果数を再検討し、適正着果数を明らかにしていきます。（中村）

### 4. 公共工事に利用可能な自生種の選定および利用技術の開発

### ●根域制限技術を活用した街路樹の巨木化抑制方法（定植3年目）

モモタマナ（広域分布種）とヒメツバキ（固有種）を根域制限処理したところ、定植3年目では巨木化抑制効果はみられませんでした。なおヒメツバキは根域制限により主幹が太くなり、生育良好となりました。（北山）

### 5. 世界自然遺産登録地に適したアフリカマイマイ管理技術の検討（終了課題）

### ●父島および母島におけるアフリカマイマイの分布（第14回全島調査結果）

前回の調査（2016年）と比べて、父島での生息地点は2地点、母島では7地点増加しました。父島では市街地で生息密度が大きく増加するとともに、前回に引き続き市街地以外の地点で発生しており、局所的な増加の傾向が認められました。増加傾向について原因の究明と対策を検討していきます。（飯塚）

#### ●父島の追加調査地点におけるアフリカマイマイの発生消長および再捕獲率

全島調査と重複しない13地点で調査したところ、市街地域内においても高密度地点は局所的に点在しました。二見港街路樹では北袋沢と小曲に比べ再捕獲率が高く、市街地では本種の移動性が低い傾向が認められました。今後、各地域での発生の特徴に応じた駆除方法について検討していきます。（飯塚）

#### ●燐酸第二鉄水和物粒剤の処理量および処理方法における防除効果の比較

オクラではスラゴ（燐酸第二鉄水和物粒剤）5 g/m<sup>2</sup>相当量をばらまき処理または株元囲い処理した場合に最も防除価が高くなりました。3 g/m<sup>2</sup>相当量では同2処理は株元山盛り処理より防除価が低下しました。ズッキーニでは5 g/m<sup>2</sup>相当量株元囲い処理で最も防除価が高くなりました。（飯塚）

### 6. 世界自然遺産登録地に適した侵入病害虫管理技術の検討

#### ●レイシ苗における温水処理条件の検討

レイシ苗は47℃—30分と60分、50℃—30分の温水処理では生育に影響はありませんでした。50℃の水をかけ流し鉢内温度を48℃まで上昇させた後に47℃—5分の温水処理を行うことで、イエシロアリが死滅する条件を満たすことができます。（飯塚）

#### ●パッションフルーツ苗の耐温水性および用土と鉢の違いによる温水処理所要時間

パッションフルーツ苗は7号鉢育成苗では4号鉢育成苗に比べ耐温水性が向上しました。低透水性の用土では処理時間が長くなりますが、底面浸漬後かけ流し処理により時間を短縮できました。鉢容量が小さいほど処理時間は短縮され、ポリポットとプラスチック鉢の8号同士を比較したところプラスチック鉢の方が処理時間は短くなりました。排水穴拡張処理などにより処理時間をより短縮できないか検討していきます。（飯塚）

#### ●アフリカマイマイの誘引捕獲技術の開発

丸型密封容器を加工して登り棒式トラップと扉式トラップを作成し、誘引餌（バナナ、焼酎、ショ糖、ドライイーストの混和発酵物）を設置して捕獲効果を調べたところ、登り棒式トラップでより多く捕獲することができました。固有陸産貝類は捕獲されませんでした。今後はトラップの設置密度や時期などを検討していきます。（五十嵐）

#### ●カンキツのミカンハモグリガに対する各種殺虫剤の効果

エクシレルSEとカスケード乳剤は散布当日から7日後までに発生する新梢に効果を示しました。ダントツ水溶剤の通常散布と樹幹散布は散布当日から18日後までに発生する新梢に効果を示しました。（五十嵐）

### 7. 亜熱帯地域におけるパッションフルーツ施設栽培技術の開発（終了課題）

#### ●施設パッションフルーツ栽培における遮光ネットの効果

5月上旬～7月上旬に遮光率30%のネットを展張したところ、施設内の平均気温が1.0～1.5℃、最高気温が1.2～2.0℃低下しました。果実重の増加と果皮色の向上によりA・準A等級が15.2%上昇し、高品質な果実生産が可能になりました。（中村）

## ～ 着任職員の紹介 ～

こんどう たけし  
**近藤 健** 営農研修所所長



営農研修所に着任しました近藤と申します。以前は、(公財)東京都農林水産振興財団で、GAP に取り組む農家さんへの支援や、認証取得のための補助事業を担当しておりました。

このたび、小笠原に 2 回目の赴任となります。前回は約 10 年前、亜熱帯農業センターで病害虫担当の研究者として勤務しておりました。ふたたび小笠原で仕事ができることを大変うれしく思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

たなべ のりこ  
**田邊 範子** 研究員



このたび、(公財)東京都農林水産振興財団より異動して参りました。前職・前前職はデスクワーク中心の仕事でした。4年ぶりに携わる試験研究の仕事で、初めて島レモンなどカンキツ類を担当することになりました。

仕事は楽しく！がモットーです。酸いも甘いも楽しみつつ、小笠原の農家のお役に立てる仕事ができるよう、めいっぱい努力したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

おおishi けんじ  
**大石 健二** 農芸員



4 月より東京都西東京市から新任農芸員として着任いたしました大石健二と申します。以前、小笠原高校の理科教諭として住み、退職を機にもう一度小笠原の力になりたいとの思いでやってまいりました。農業については素人ですが、新たな知識や技術を身に付けて小笠原の農業や産業の発展に少しでも貢献できるように頑張りたいと思ひます。どうぞ宜しくお願ひいたします。

### 担当の紹介

H31年度の農業センターの分担が決まりました。所長の吉原は全体の総括。田邊は果樹主担当でカンキツ類を担当します。北山は固有種主担当で他にマンゴーとライチを担当します。中村はパッションフルーツを担当します。飯塚は病害虫と当ニュースの編集を担当します。ご質問、ご要望は各担当者が承りますのでよろしくお願ひ致します。

### 俾任職員

平成31年4月1日付けで研究員の荒井は農林総合研究センター(立川市)へ異動となりました。長い間お世話になりました。

農業センターニュースと試験成績概要は小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。

検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース・試験研究成果概要